

## 指定管理者評価シート

## 一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市黒松児童館	
2 指定管理者	公益財団法人仙台ひと・まち交流財団	
3 指定期間	令和5年4月1日～令和10年3月31日	
4 施設の利用状況	《利用者数》 令和5年度 20,226人(前年度比 118.5%) 令和4年度 17,067人 令和3年度 13,714人	
	《事業》 ・児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業	
5 収支の状況	《費用》 ( )は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 35,643千円 (26,985千円) ・ その他市が負担した費用 0千円 (0千円)	
	《収入》 ・ 使用料収入 0千円 (0千円) ・ その他収入 0千円 (0千円)	
6 利用者の声	《実施状況》 ・利用者アンケート、児童館運営懇談会、児童クラブ保護者懇談会を実施。	

## 二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議、チェックシート等で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる	30/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	24/24
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。気づいた事や児童の様子等、付箋を活用し記録を残して職員が一貫した認識を共有して支援にあたっている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場を整え、学校を中心に各関係機関と連携して育成支援に取り組んでいる。また、乳幼児親子向けの行事開催や交流の場の提供により子育て家庭を支援すると共に、小中高生に対して、発達段階に応じた遊びの指導や活動支援を行っている。また、地域との交流事業においては、日頃の情報交換や様々な工夫を凝らした事業で地域連携の保持に努めている。	19/19

### 三 評価総括

《指定管理者（公益財団法人仙台ひと・まち交流財団）による自己評価》
<p>利用者の皆さんに喜んで頂ける児童館を目指し、安全安心を第一としながら、頂いたご意見を積極的に反映した運営を心がけてまいりました。児童健全育成事業は、八乙女中学校の生徒を対象にした「中学生サポーター制度」を実施しました。長期休みに中学生が小学生に勉強を教えたり一緒に遊んだりする事で、小学生にとっては憧れの存在である中学生と交流できる機会となり、中学生にとっては自己肯定感を高め、居場所作りのきっかけになる機会となりました。今後も続け交流が更に深まることを期待しています。子育て家庭支援事業では、新たに「親子で遊ぼう（移動児童館）」を開始しました。八乙女地区社協のご協力を頂いて集会所を借用することで、近くに児童館の無い八乙女地区の乳幼児親子向けの気軽な遊び場として、ふれあい遊びや簡単工作等を楽しむことができます。お茶を飲みながらの交流タイムもあり、保護者同士のネットワークが広がりました。地域交流推進事業として実施している「AKDチャンピオン決定戦」は、地下鉄沿線の旭ヶ丘(A)黒松(K)台原(D)の3児童館が遊びを通して交流する行事です。玉入れや綱引き、ドッジボールの3種目を児童館の対抗戦ではなく、1グループに3児童館が混在するように編成することで、まさに交流戦となりました。当日の決定戦には参加しない小学生も、前日まで一生懸命練習の相手を務め、児童館全体が決定戦で盛り上がりました。当日の保護者の声援も参加者にとって大きな力となりました。放課後児童健全育成事業は、年間6回の子ども会議を開き、より居心地の良い児童館作りを目指しました。最初はなかなか話し合いが進みませんでしたでしたが、縦割りグループに分かれることで、活発な意見が出されるようになりました。進行役の高学年も回を重ねるごとに成長した姿を見せてくれるようになりました。今後も子ども真ん中社会の実現を目指し、役割を果たしてまいります。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>児童健全育成事業においては、児童館だよりを乳幼児親子・小学生・中高生世代別に発行して、小中学生には学校を通して全児童に配布し、児童及び保護者に児童館の取組みを伝え、行事参加の呼びかけと来館者促進に努めた。また運動遊びや伝承遊び、季節の物作り等、遊びを通して子どもの育ちを支援するとともに異年齢交流を通して社会性や自主性を育んでいる。その他、長期休業中の中学生サポーターの活動は、小学生の学習と遊びのサポートを担い、異年齢交流を通して中学生が自己肯定感を得る機会となっている。</p> <p>子育て家庭支援事業においては、季節の行事や歯科衛生士、保育士による育児講座等の多彩な内容を提供しており、年齢別の定例行事や登録制の幼児クラブに多くの乳幼児親子が参加している。特に「くまっちー0パーク」は0歳児親子の視点で利用しやすい環境作りに努めており、来館者のリピーター増加に繋がっている。その他、八乙女地区社協の協力による移動児童館や曜日毎の遊戯室の遊具設置の工夫等の取組みにより、参加者から好評を得ており、地域の子育て拠点としての役割を担っている。</p> <p>地域交流推進事業においては、放課後子ども教室と連携し「思いつき遊ぼうIN黒松小学校」が開催され、大学生ボランティアや地域の方と子ども達がドッチビーを通して交流した。児童館の遊びや楽しさを伝える機会となり自由来館増加に繋がった。また近隣の児童館と3館合同で開催した「AKD交流戦」は、異なる児童館の子ども達が競技別に合同チームを編成して交流し、近隣地域を含めた地域交流を積極的に展開している。</p> <p>放課後児童健全育成事業においては、6年生を中心に「ハザードマップ作り」が継続的に行われてきた事に加え、児童館内の危険個所に子ども達が着目し、施設内危険個所マップを作成して掲示したり、子ども会議を年6回開催し子どもが主体的に生活できるように話し合い、改善しながら過ごし方を考えている。その他、子どもの様子や気付いた事等を全職員が都度メモできる付箋を児童クラブ室に常備し、保護者との連携のツールとして職員間で共有し支援している。また、メモはヒヤリハットとしても活かされており、職員会議で事例検討して要因分析を行い、事故防止に努めている。</p>	S

### 四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課(施設所管課):こども若者局こども若者支援部児童クラブ事業推進課